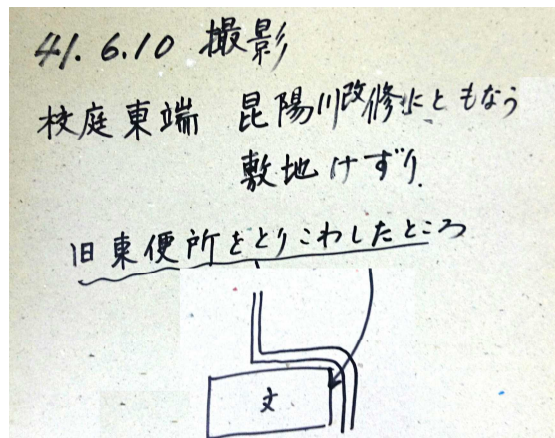
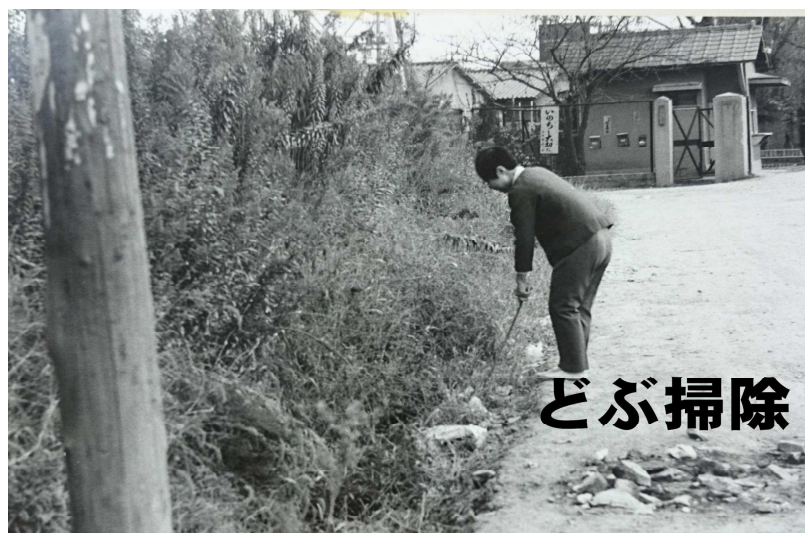


学校の前を流れる川は②…蘇った昆陽川

かつては地盤沈下と汚染と洪水に悩まされた尼崎市内の各河川ですが、今はそれが嘘みたいです。このことについては、治水、利水、親水に関わって、第7話で述べた通りです。が、文章では、どれだけ汚れていたかは、なかなかイメージできません。また、その様子を知る人もかなり昔のことで、リアルに思い出すことは殆どないかも知れません。昭和40年前後の都市河川は、尼崎に限らず概ねどこも散々でした。そして、川に限らず、空も海も土も同様でした。今回は学校のすぐ前を流れる昆陽川について、汚染された川の様子を写真で紹介します。





どぶ掃除



学校前の道路

大雨洪水につき休校



川というよりもゴミ溜めのドブといったほうがよいぐらいの尼崎の各河川。ひとたび大雨が降ると、水があふれて洪水になりました。そんな川も、重なる改修や下水の整備によって現在の姿に至っています。また、公害による健康被害が出始めてからは、市民の環境への意識も変わってきて、環境保全に気を遣う人も多くなりました。学校の前を流れる昆陽川もコンクリートを打ち、人工河川に変貌するとともに、バイパス河川として上坂部川が開削されました。流れが上坂部西公園内に入ると、憩いの川として市民に親しまれています。今は人と川との距離が縮まり、利水だけでなく親水へと活用されています。これからも人と川が共生を通し、「生き生きとした川」であってほしいと願います。

各写真は、上坂部小学校社会科資料より

